

内里八丁遺跡出土の絞胎陶枕をめぐって

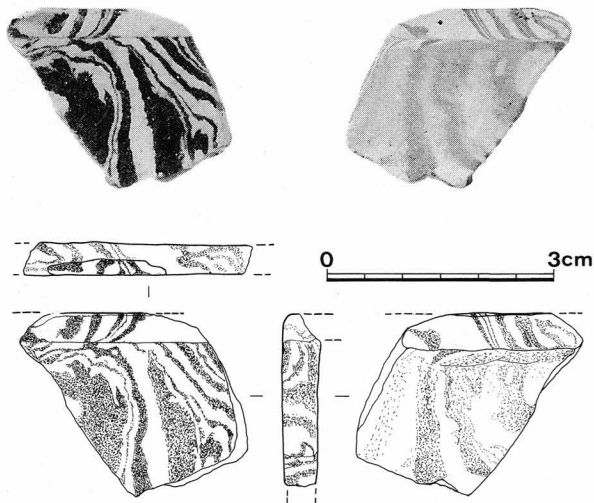
引原 茂治

1. はじめに

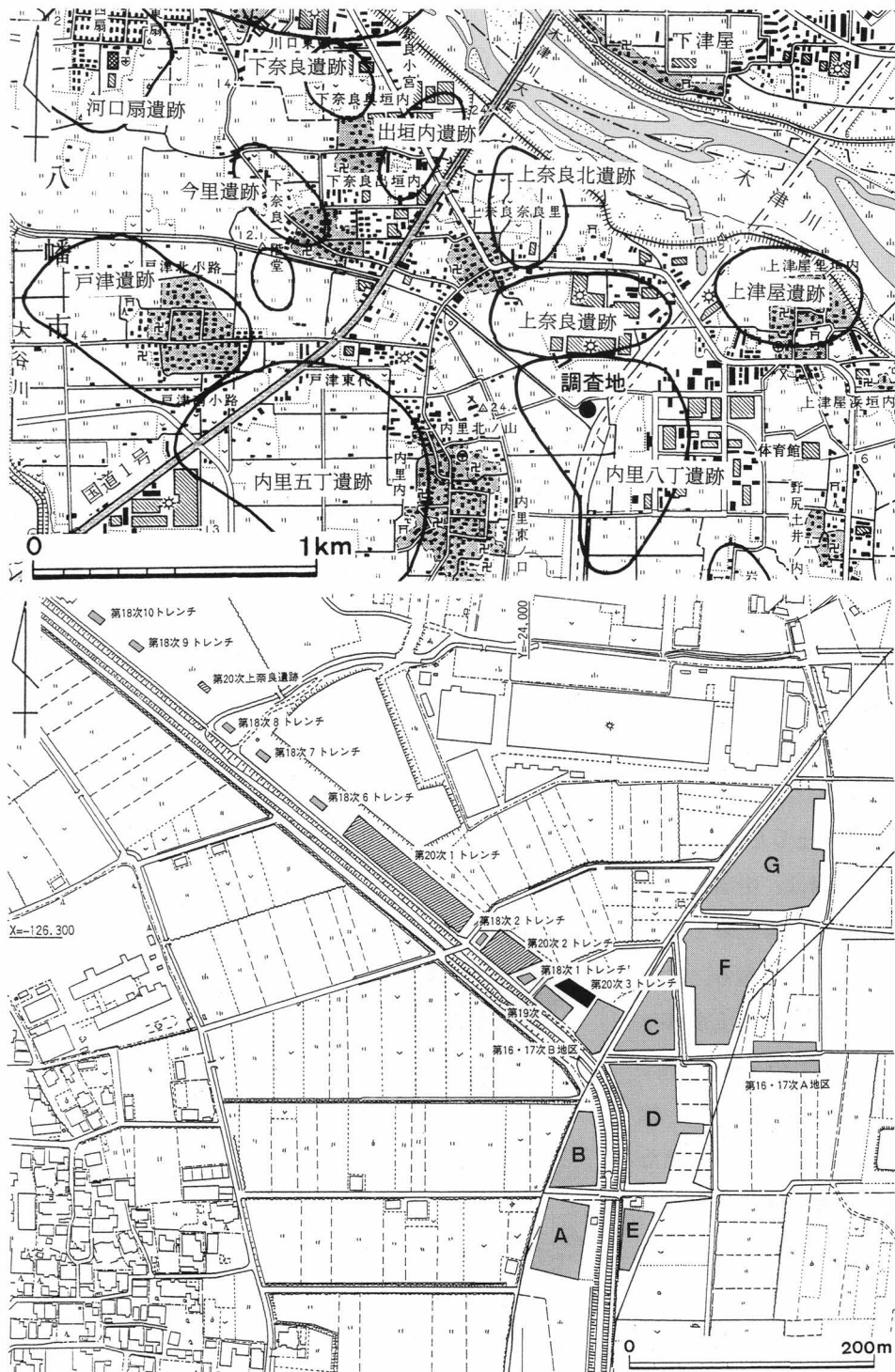
内里八丁遺跡は、京都府八幡市内里に所在し、木津川西岸の自然堤防上に位置する、広範囲にわたる集落遺跡である。これまで第2京阪道建設や府道新設事業に伴って調査が行われ、弥生時代から中世にかけての複合遺跡であることが確認されている。主な遺構としては、弥生時代の水田跡や古墳時代の竪穴式住居跡、古代・中世の掘立柱建物跡や井戸跡などが検出されている。また、奈良時代の古山陰道の側溝と考えられる溝なども検出されている。北西側に隣接する上奈良遺跡は、『延喜式』卷第三十九内膳司の条に記載されている「奈良園」の候補地とみられており、則天文字などを記した墨書土器が出土している。平成15年度に実施した内里八丁遺跡第20次調査で、廃棄土坑と考えられる円形土坑から、絞胎陶枕片が出土した。^(注1)

2. 出土した絞胎陶枕片

絞胎陶は、中国唐代に生産された唐三彩と同様の鉛釉陶器である。白色土および赤褐色土を練り合わせたものを胎土とし、縞状の文様を呈する。絞胎陶には、練り合わせた胎土の塊を板状に切りだしたものを用いるものと絞胎陶土の塊を薄く剥いで無地の胎土に貼り付けるものがあり、技法的には後者のほうが新しい。

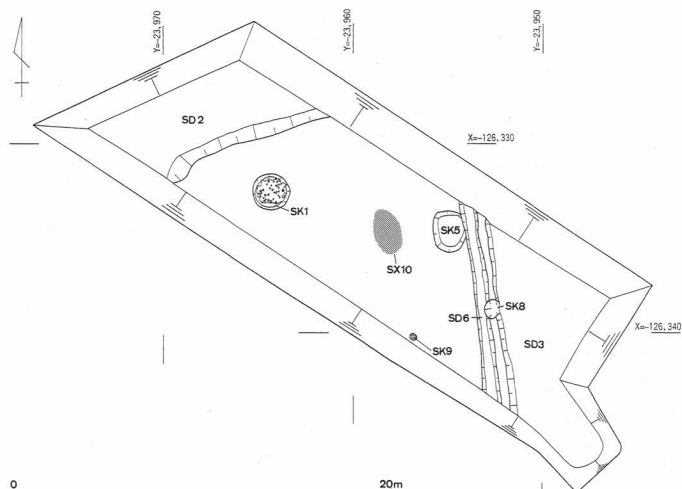


第1図 絞胎陶枕片



第2図 出土地位置図 (上図：国土地理院2万5千分の1淀)

今回出土したのは前者の技法のものである。なお、絞胎技法は、7世紀後半には成立していたことが確認されている。^(注2) 出土した絞胎陶枕片は、外面に黄色味を帯びた透明釉を施す。一部濃い黄色味を帯びた釉がみとめられ、あるいは、部分的に黄釉を掛け流しているもの



第3図 3トレンチ平面図

とも考えられる。内面は無釉であり、整形時のナデ調整のためか、縞模様が見え、滲んだような状態である。器胎の厚さは、4～5mmを測る。断面にも、縞状の文様が見られる。小片であるが、板状の胎土を張り合わせた痕跡が残る。その貼り合わせの状況から、陶枕の側板および天板の一部とみられる。

出土遺構は、第3トレンチの土坑SK1で、トレンチ西半部で検出した。径約1.9m・深さ約0.3mを測る円形土坑である。須恵器や土師器が多数出土したが、破損した器物を投棄したような状態であり、この土坑は一種の廃棄土坑と考えられる。また、投棄は南東側から行われたものとみられる。これらの土器は、古いものでは7世紀頃のものが含まれるが、最も新しいものは平城宮Ⅱ形式並行期のものであり、その時期に廃棄されたものと考えられる。

3. 唐三彩等出土する遺跡の性格

絞胎陶や唐三彩など、中国唐代に生産された鉛釉陶器は、日本でも80か所前後の遺跡から出土しているが、量的にはかなり少ない。そのような中で、奈良市の史跡大安寺跡では、^(注3) 三彩や絞胎の陶枕片が多量に出土しており、量的には群を抜く。

日本において、絞胎陶や唐三彩が出土する遺跡は、古墳、都城跡、寺院跡および宗教関連遺跡、官衙および官衙関連の集落跡などである。一般的な集落跡などから出土する例は少ない。今回出土した絞胎陶枕片は、古代における内里八丁遺跡の性格を考える上で、興味深い資料と言えよう。

これまで、内里八丁遺跡では、古代の遺構として、掘立柱建物跡や古山陰道の側溝かと

考えられる溝などを検出している。また、瓦や墨書土器、石製や銅製の帯飾りなどの遺物も出土している。第20次調査でも、一辺1m近い柱穴掘形を持つ3間×3間の総柱の掘立柱建物跡や、部材に組み立て順を墨書した井籠組井戸跡などを検出している。井戸内からは、墨書土器や帯金具の尾錠などが出土している。なお、この井戸は、出土した「承和昌寶」から、9世紀前半頃までは機能していたものと考えられる。

このように、内里八丁遺跡からは、古代の官衙跡や寺院跡との関連が予想される遺構、遺物を確認してはいるが、直接的にそれらを示す遺構、遺物は、検出していない。今回出土した絞胎陶枕片も直接的な資料とまでは言いがたいが、古代の内里八丁遺跡が一般的な集落とは異なることを想定させる資料であろう。また、上記のとおり、内里八丁遺跡の北側に隣接する上奈良遺跡は、宮廷の内膳司が管掌する「奈良園」の候補地とみられている。このことを考えあわせると、あるいは、付近に園を管轄する官衙的な施設が存在する可能性を示唆するものとも考えられる。

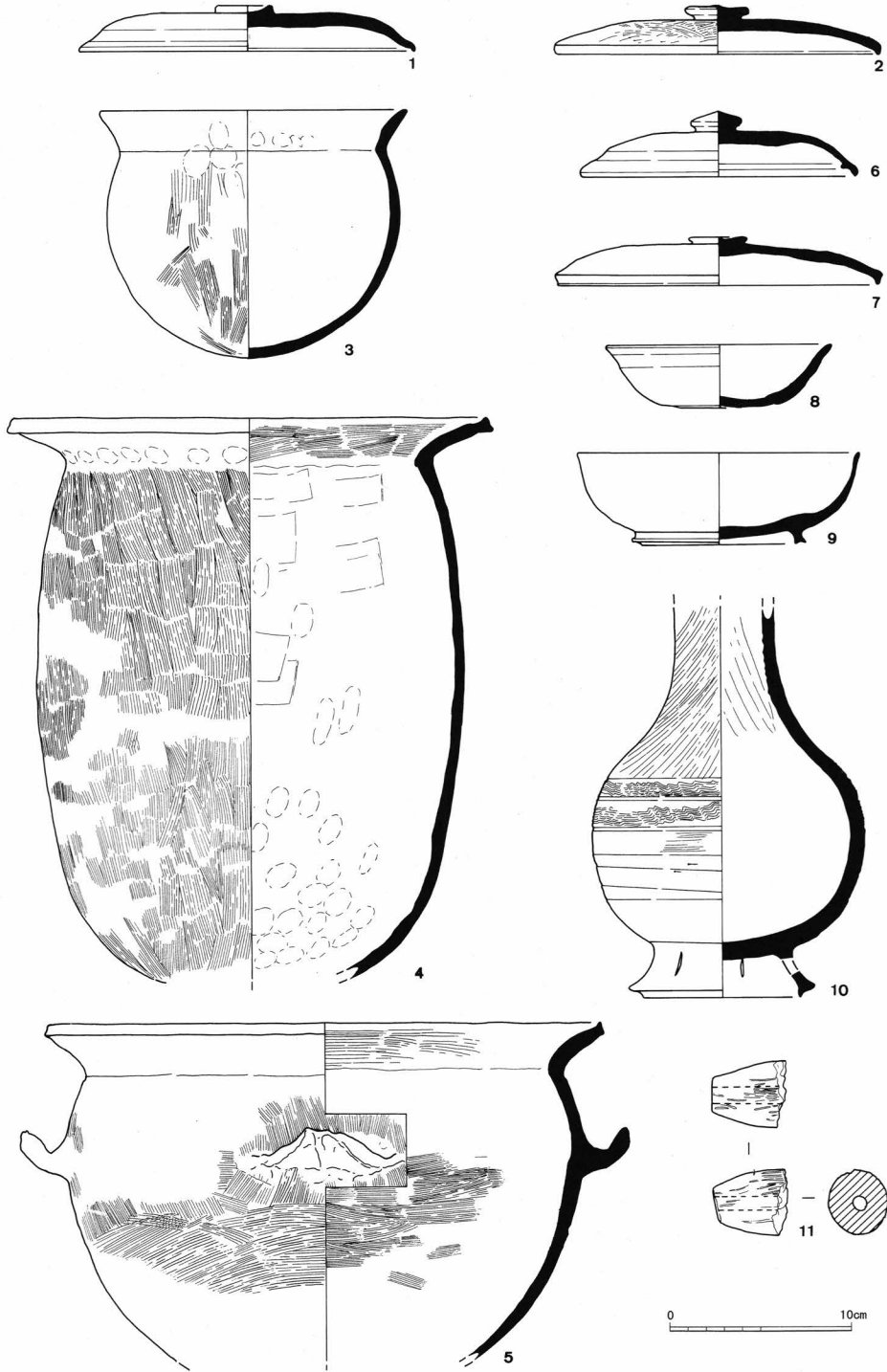
4. 絞胎陶枕の出土傾向

全国から出土している唐代の鉛釉陶器は、器種的には陶枕が最も多い。陶枕片が200片以上出土し量的に他を圧する史跡大安寺跡を別にしても、やはり多い。種別では、三彩などの彩釉陶が多く、絞胎陶は少ない。大安寺跡でも、絞胎陶枕は全体の約20%程度である。それ以外の地域では、陶枕以外を含めても、絞胎の含まれる割合はさらに低くなる。

絞胎陶の分布地域は、畿内、九州の大宰府跡・鴻臚館跡に限られてくる。三彩などの彩釉陶が東北から九州まで全国的に分布する状況に較べて、かなり特殊であると言えよう。大宰府は九州における中央の出先機関であり、鴻臚館は当時の迎賓館である。そのような意味では、畿内と密接な関係のある機関と言えよう。絞胎陶の分布には、受け入れる側の嗜好にも左右されるとは考えられる。しかし請来された数が少なかったために広範囲に行き渡らず、畿内および関連地域にのみ分布することとなった可能性もある。

また、絞胎陶の分布地域のうち、大宰府や鴻臚館は、国外に向かって開かれた当時の門戸であり、唐代鉛釉陶などの請来については、他地域とは異なる状況があることも想定される。そのような観点で、大宰府や鴻臚館を例外とすると、絞胎陶の分布地域は畿内に限られてくる。

唐代の鉛釉陶については、7世紀段階から日本に請来されていると考えられている。おそらく数回にわたって請来されているものと考えられる。鉛釉陶請来の経路についても、唐からの直接の請来と、新羅などを經由しての請来などが考えられる。ただ、朝鮮半島では、慶州で3例程度の出土が知られるのみということであり、新羅經由は有力なルートと



第4図 第3トレンチSK1出土遺物
1～5：土師器、 6～11：須恵器

は考えがたい。唐から直接請来する事例の方が多かったのではないか。唐から直接請来したとすれば、まず考えられるのは遣唐使である。今回出土した絞胎陶枕片は、平城宮Ⅱ形式並行期およびそれ以前に請来されたものとみられ、その観点から、大宝4(704)年帰国の第7次遣唐使もしくは養老2(718)年帰国の第8次遣唐使によってもたらされた可能性が考えられる。とりわけ、藤原京跡から絞胎陶枕が出土していない点からみて、第8次遣唐使の可能性が高いものと考えられる。そのように考えると、今回出土した絞胎陶枕片は、請来後あまり時を経ずに破損して廃棄されたものとみられる。

なお、絞胎陶枕については、出土数が少ない点や分布の偏りから、単次的に請来されたものともみられる。このうち、平安京左京八条三坊七町と大宰府出土の絞胎陶枕は、無地の器胎に薄く剥いだ絞胎陶土を貼り付けたもの^(注5)ということであり、請来時期に差があるものとも考えられる。

5. 絞胎陶枕をめぐる仮説

日本出土の唐代鉛釉陶器を考える場合、史跡大安寺跡から出土した多数の陶枕片を看過することはできない。これらの陶枕片は、平城京における大安寺の造営に係わった道慈が唐からもたらした、という説がある^(注6)。道慈は、第7次遣唐使とともに入唐し、第8次遣唐使に従って帰国している。その際に、奈良三彩の製作見本として、三彩の製作技術とともに持ち帰った、というものである。これに対して、道慈の係わりを否定する説もある^(注7)。すなわち、道慈は、華美に走りがちな当時の日本仏教に批判的であり、仏器が主体の奈良三彩の製作に係わった可能性はとぼしい。また、その時点で陶枕が大安寺に所蔵されていれば天平18(746)年の『大安寺伽藍縁起并流記資材帳』(以後、「資材帳」と略す。)に記載があるべきだが、それがみられない、というものである。

確かに「資材帳」には記載されていないのも事実であるが、大安寺跡から多数出土したのも事実である。天平18年以前に大安寺に所蔵されていなかったとすれば、いつの時期に、どのようにして、所蔵されるようになったのか。唐三彩製作の最盛期は7世紀中葉から8世紀中葉頃までの100年間といわれており、天平18年以後の請来は、やや遅いものとみられる。また、上記のように、絞胎陶枕の請来を単次的なものともみると、やはり、第8次遣唐使による請来とみるのが妥当であろう。その請来に道慈に係わっているのか否かは別問題である。

第8次遣唐使による請来と考えると、その所蔵された場所が問題となる。事実として多数の陶枕片が出土した大安寺ではないとすると、当時の状況からみれば、平城宮と考えるのが妥当ではないか。平城宮東院園地地区から絞胎陶枕片が出土しているのが、その傍証

とみることもできる。大安寺も平城京内の寺院であり、やや強引ではあるが、数量的には平城京内が絞胎陶枕の最多出土地である。平城京の中心である平城宮に請来されたとみることは、あながち不自然なことではないと考えられる。今回出土した絞胎陶枕も、大安寺からというよりも、宮廷から配布されたものとみるほうが妥当であろう。

平城宮に請来された陶枕が大安寺に所蔵されることになる経緯については、さまざまに想定される。その一つとして、天平勝寶4(752)年の東大寺大仏開眼会に対する大安寺の役割がある。導師として大仏の眼を点じたインド僧菩提僊那や咒願師をつとめた唐僧道璿は大安寺に止住しており、仏哲が伝えた大安寺林邑樂は開眼会で奏されている^(注8)。このような大安寺の功績に対して宮廷から施入された賞物の一部が、これらの陶枕であったと考えられることもできよう。このようにみれば、「資材帳」以後の施入となる。なお、大安寺跡出土の陶枕片には、奈良三彩と考えられるものも含まれている。

6. おわりに

今回は、内里八丁遺跡第20次調査で出土した絞胎陶枕片をめぐるさまざまに考えてみた。近年出土例が増えたとはいえ、いまだ不明な点が多く、仮定の上に仮定を重ねるような結果になった。また、出土例の多い陶枕の日本での用途や性格についても触れることができなかった。課題は多いが、今後の類例の増加を待ちたい。

(ひきはら・しげはる=当センター調査第2課主任調査員)

- 注1 引原茂治ほか「内里八丁遺跡第20次発掘調査概要」(『京都府遺跡調査概報』第116冊 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター)2005
- 注2 『唐三彩展 洛陽の夢』図録 2004
- 注3 巽淳一郎「大安寺の土器類」(『大安寺史・史料』発掘調査報告 大安寺)1984
- 注4 弓場紀知「東アジアの鉛釉陶器の意義と陶磁史上の位置づけ」(『国立歴史民俗博物館研究報告』第94集 国立歴史民俗博物館)2002
- 注5 (財)京都市埋蔵文化財研究所『平安京発掘資料選』京都市考古資料館 1980
- 注6 植崎彰一「日本出土の唐三彩とその性格」(『研究紀要』第8輯(財)瀬戸市埋蔵文化財センター)2000
- 注7 高橋照彦「日本古代における三彩・緑釉陶の歴史的特質」(『国立歴史民俗博物館研究報告』第94集 国立歴史民俗博物館)2002
- 注8 今城甚造『大安寺』中央公論美術出版 1975

参考文献

- 「鞆義黄治唐三彩」(『奈良文化財研究所史料』第61冊 奈良文化財研究所)2003

第1表 唐三彩等出土地一覽表

番号	都道府県	市町村	遺跡名	性格	器種	種別
1	山形	酒田市城輪	城輪柵跡	官衙跡	陶枕	三彩
2	群馬	新田郡新田町村田	境ヶ谷戸遺跡	寺院跡	陶枕	三彩
3	"	佐波郡赤堀町多田山	多田山12号墳	古墳	陶枕	三彩
4	埼玉	大里郡岡部町岡	熊野遺跡	官衙跡小	陶枕	三彩
5	千葉	印旛郡栄町酒直	向台遺跡	官衙跡小	陶枕	三彩
6	"	鎌山市国分	安房国分寺跡	寺院跡	三足炉	三彩
7	神奈川	平塚市四ノ宮	瓢訪前A遺跡	官衙跡	小壺	三彩
8	長野	更埴市雨宮	屋代遺跡群町浦遺跡	集落跡	陶枕	三彩
9	"	佐久市小田井	鋳物師屋遺跡群前田遺跡	官衙跡小	陶枕	三彩
10	静岡	沼津市大岡長者町	日吉廃寺	寺院跡	陶枕	三彩
11	"	浜松市若林町	城山遺跡	官衙跡	陶枕	三彩
12	三重	三重郡朝日町繩生	繩生廃寺	寺院跡	椀	三彩
13	"	多気郡明和町	斎宮跡	官衙跡	陶枕?	緑釉?
14	滋賀	栗東市	新開西3号墳	古墳	露玉	二彩
15	京都	京都市	北白川廃寺	寺院跡	壺	三彩
16	"	"	史跡大覚寺御所跡	寺院跡	台座、陶枕、椀	三彩、黄釉
17	"	"	平安京内裏跡	都城跡	稜花皿	緑釉
18	"	"	平安京右京一条三坊十三町	"	陶枕	三彩
19	"	"	平安京右京一条四坊	"	小壺	二彩
20	"	"	平安京右京一条四坊四町	"	陶枕	三彩
21	"	"	平安京右京二条三坊二町	"	陶枕、壺	絞胎(黄釉)、三彩
22	"	"	平安京右京二条三坊	"	不明	二彩
23	"	"	平安京右京三条一坊二町	"	不明	三彩
24	"	"	平安京右京三条三坊五町	"	壺	黒釉
25	"	"	平安京右京三条三坊十町	"	椀	黄釉
26	"	"	平安京右京四条三坊六町	"	壺、不明	三彩
27	"	"	平安京右京五条一坊	"	蓋	緑彩
28	"	"	平安京右京七条一坊二町・三町	"	椀、壺	三彩
29	"	"	平安京左京四条三坊十三町	"	陶枕	絞胎(緑釉)
30	"	"	平安京左京四条三・四坊	"	破片	

31	"	"	"	平安京左京四条四坊	"	陶枕	三彩
32	"	"	"	平安京左京四条四坊五町	"	陶枕	三彩
33	"	"	"	平安京左京七条三坊七町	"	不明	絞胎 (黄釉)
34	"	"	"	平安京左京七条三坊十五町	"	壺	絞胎 (黄釉)
35	"	"	"	平安京左京八条二坊十町	"	壺	遼三彩か
36	"	"	"	平安京左京八条三坊二町	"	陶枕	絞胎 (黄釉)
37	"	"	"	平安京左京八条三坊七町	"	陶枕	三彩
38	"	"	"	平安京左京九条三坊十六町	"	曲杯	三彩
39	"	"	"	小倉町別当町遺跡	集落跡	陶枕	絞胎
40	"	八幡市内里	内里八丁遺跡	若江遺跡	寺院跡	壺、椀	三彩、絞胎
41	大阪	東大阪市若江町	鳥坂麿寺跡	平城宮佐紀池宮推定地	都城跡	陶枕	三彩
42	"	柏原市高井戸坂	平城宮東院園地地区	平城京右京二条三坊四坪	"	陶枕	絞胎 (黄釉)
43	奈良	奈良市佐紀町	平城京右京五条一坊十五坪	平城京左京二条二坊八坪	"	椀	絞胎 (黄緑二彩)
44	"	"	法華寺町	平城京左京二条二坊十二坪	"	陶枕	三彩
45	"	"	菅原町	平城京左京三条二坊八坪	"	椀、合子蓋	三彩
46	"	"	五条町	平城京左京七条二坊六坪	"	輪花杯	三彩
47	"	"	法華寺町	史跡大安寺跡	寺院跡	陶枕	三彩、黄緑二彩、絞胎 (黄釉)
48	"	"	法華寺町	史跡大安寺跡	"	陶枕	三彩
49	"	"	法八条	史跡大安寺跡	"	陶枕	三彩
50	"	"	大安寺町	史跡大安寺跡	"	陶枕	三彩
51	"	"	大安寺町	史跡大安寺跡	"	陶枕	三彩
52	"	"	大安寺町	藤原京右京二条三坊東南坪	都城跡	甕	三彩
53	"	"	橿原市醍醐町	藤原京右京五条四坊	"	滴足凹面硯	二彩
54	"	"	小房町	安倍寺跡	寺院跡	獸脚	三彩
55	"	"	桜井市阿部	石神遺跡	都城跡	椀か高坏	緑釉
56	"	"	高市郡飛鳥村	坂田寺跡	"	輪花杯	三彩
57	"	"	高市郡明日香村坂田	"	"	陶枕	三彩
58	"	"	祝戸	"	"	火倉、短頸壺	渤海三彩
59	"	"	祝戸	"	"	有蓋滴足凹面硯	二彩
60	"	"	生駒郡斑鳩町龍田	御坊山3号墳	古墳	破片	三彩
61	兵庫	芦屋市西山町	芦屋麿寺跡	淡路国分寺跡	寺院跡	破片	三彩
62	"	"	三原郡三原町		"	破片	三彩

63	島根	松江市乃木福富町	福富I遺跡	官衙関連	壺	三彩
64	広島	府中市元町	金龍寺東遺跡	"	陶枕	三彩
65	"	芦品郡新市町宮内	吉備津神社裏山遺跡	寺院跡	長頸瓶	三彩
66	"	三次市向江町	備後寺町院寺	官衙跡	把手	緑釉
67	福岡	福岡市博多区	瑞穂遺跡	"	陶枕	三彩
68	"	" 中央区	鴻臚館跡	"	不明	白釉緑彩
69	"	" 中央区	"	"	籠編型椀、鉢	緑釉、白釉緑彩
70	"	" 中央区	"	"	陶枕、壺	絞胎(黄釉)、緑釉
71	"	" 中央区	"	官衙関連	盤	三彩
72	"	" 南区	柏原M遺跡	"	不明	三彩
73	"	" 西区	十郎川遺跡	"	水注	二彩
74	"	" 東区	多々良込田遺跡	官衙関連	壺蓋	三彩
75	"	" 西区	東入部遺跡	寺院跡	炉	三彩
76	"	太宰府市観世音寺	観世音寺東辺部	官衙跡	陶枕	三彩
77	"	" 観世音寺	観世音寺跡	"	壺	三彩
78	"	" 観世音寺	大宰府蔵司跡	官衙跡	陶枕	三彩
79	"	" 通古賀	大宰府・市ノ上遺跡	"	陶枕	絞胎(黄釉)
80	"	京都郡刈田町谷	谷遺跡	集落跡	陶枕	三彩
81	"	宗像郡大島村沖ノ島	沖ノ島5号遺跡	祭祀遺跡	長頸瓶	三彩
82	長崎	杵岐郡勝本町立石東触	双六古墳	古墳	椀	二彩
83	"	杵岐郡勝本町百合畑触	世塚古墳	古墳	椀	緑釉

※この表の作成にあたり、以下の文献を参照した。

奈良文化財研究所埋蔵文化財センター「唐三彩関係文献目録」（『埋蔵文化財ニュース』109） 2002

『唐三彩展 洛陽の夢』図録 2004

『器は語る700年』斎宮歴史博物館 2000

『滋賀埋蔵文化財センター』第283号 滋賀県埋蔵文化財センター 2003

『京都府遺跡調査概報』第116冊 （財）京都府埋蔵文化財調査研究センター 2005